

第25期横浜市スポーツ推進審議会 第5回会議

日時 令和3年12月2日(木) 18時～

場所 横浜市役所18階 なみき19会議室

- 次第 -

- 1 開会
- 2 定足数確認
- 3 市民局スポーツ統括室長あいさつ
- 4 議題
第3期横浜市スポーツ推進計画(素案)について
- 5 その他
- 6 閉会

<配付資料>

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 第4回会議議事録
- ・ 【資料1】 第3期横浜市スポーツ推進計画に向けた審議スケジュール
- ・ 【資料2】 第3期横浜市スポーツ推進計画(素案)
- ・ 【資料2 別紙】 第3期横浜市スポーツ推進計画における課題と目標別の取組
- ・ 【資料3】 横浜市「健やかな体」育成プログラム(案)
- ・ 【参考資料】 <現行計画>横浜市スポーツ推進計画(中間見直し) 概要版
- ・ 【参考資料】 東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市開催報告

第25期横浜市スポーツ推進審議会委員名簿

(敬称略・五十音順)

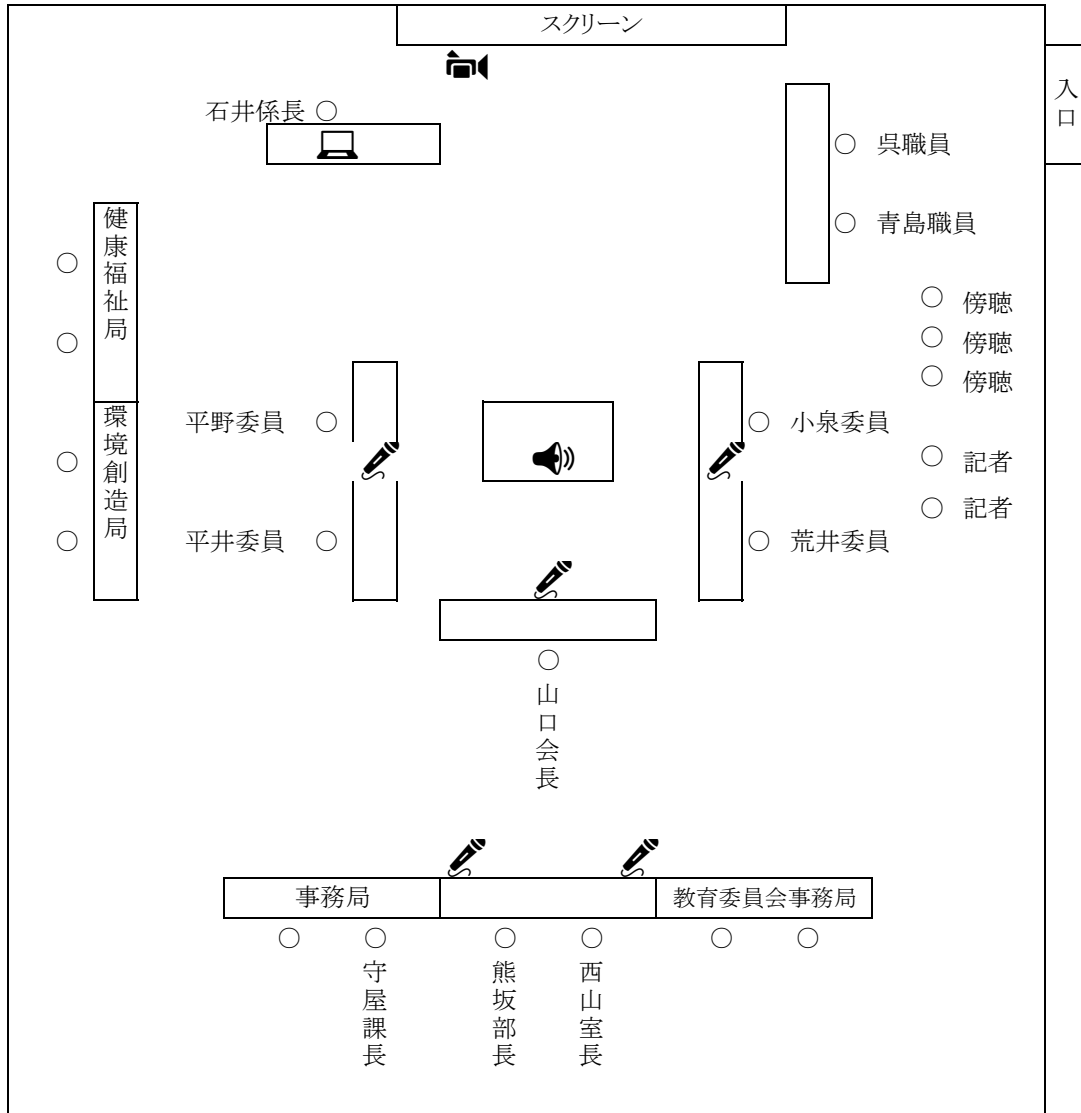
	氏 名	役 職 名
1	荒井 健	横浜市立小学校体育研究会会長 (横浜市立篠原西小学校校長)
2	石黒 えみ	亜細亜大学経営学部准教授
3	小熊 祐子	慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授
4	小田 治男	一般社団法人横浜市医師会横浜スポーツ医会会長
5	大日方 邦子	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会会長
6	小泉 純一	横浜市中学校体育連盟会長 (横浜市立栗田谷中学校校長)
7	佐々木 玲子	慶應義塾大学体育研究所教授
8	萩 裕美子	東海大学大学院体育学研究科長、体育学部教授
9	平井 孝幸	横浜市スポーツ推進委員連絡協議会会長
10	平野 裕一	法政大学スポーツ健康学部教授
11	宮嶋 泰子 ○	一般社団法人カルティベータ代表理事 スポーツ文化ジャーナリスト
12	山口 宏 ◎	公益財団法人横浜市スポーツ協会会長
13	ヨーコ・ ゼッターランド	公益財団法人日本スポーツ協会常務理事

- ◎ 会長
○ 副会長

(任期：第1回審議会から2年間)

第25期スポーツ推進審議会第5回

令和3年12月2日(木) 18時00分～
横浜市役所新市庁舎18階 なみき19



第 25 期横浜市スポーツ推進審議会 第 4 回会議

令和 3 年 6 月 24 日 (木)

スカーフ会館ビル 7 階大会議室

1 開会

○熊坂部長 それでは、ただいまから第25期横浜市スポーツ推進審議会第4回会議を始めます。このたびは、皆様大変お忙しい中、御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

2 定足数確認

○熊坂部長 本日は、委員総数13名のところ、リモートでのご出席7名を含み、12名にご出席をいただいておりますので、横浜市スポーツ推進審議会条例第6条第2項の規定に基づき会議は有効に成立しております。

なお、本日は都合により小田委員がご欠席、ゼッターランド委員が17時45分頃までのご出席の予定です。また、委員の皆様に加えて、教育委員会事務局、健康福祉局、リモートにて横浜市スポーツ協会も出席しております。

会議の開催に先立ちまして、御退職等で解嘱となりました石渡委員、小宮委員、後藤委員に代わり、本日付けで委嘱となる3名を御紹介させていただきます。一言ずつ自己紹介をお願いいたします。名簿順に、小宮委員に代わりご就任いただきました、荒井委員から、お願いいたします。

○荒井委員 横浜市立小学校体育研究会会長の荒井と申します。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。続きまして、石渡委員に代わりご就任いただきました、小泉委員、お願いいたします。

○小泉委員 こんにちは。横浜市中学校体育連盟会長になりました、栗田谷中学校校長の小泉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○熊坂部長 続きまして、後藤委員に代わりご就任いただきました、平井委員、お願いいたします。

○平井委員 こんにちは。横浜市スポーツ推進委員の会長になりました、平井でございます。頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○熊坂部長 以上、3名の委員の方からご挨拶いただきました。

3 市民局スポーツ統括室長あいさつ

○熊坂部長 続きまして、市民局スポーツ統括室長の西山から、開催にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

○西山室長 皆さんこんばんは。スポーツ統括室長の西山でございます。本日はお忙しい中、第25期横浜市スポーツ推進審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

今回より、荒井様、小泉様、平井様の3名の委員の方に入ってくださいました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題は、スポーツ推進計画に係る目標及び取組を、総振り返りする内容となっておりますが、委員の皆様にはそれぞれの見地から、貴重なご意見をいただければ幸いです。

国のスポーツ推進審議会では、令和4年度からの第3期スポーツ基本計画の策定に向けて、議論がなされていると伺っております。横浜市においても、同じ令和4年度から次期スポーツ推進計画の策定に向けて、国の計画を参酌しつつ、「スポーツ都市横浜」の実現に向けて、横浜らしいスポーツ推進計画を作りたいと考えておりますので、どうかご議論を深めていただければと存じます。

最近の横浜市のスポーツの状況ですが、先月、5月15、16日に、「2021 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」という国際大会を、コロナ禍の中、運営させていただきました。33か国、180人くらいの方が参加されまして、我々も初めての経験でしたが、感染症対策を行いながら、様々な対応をいたしました。飲食物の配付は、対面での受け渡しが出来ないということで、各々ホテルの部屋のドア前に置いたり、足りないものがある時は買い出しに行ったり、選手の皆さんからの多岐にわたる要望に、可能な限りの対応をいたしました。色々ご迷惑をおかけしたこともありますが、国際大会でオリンピックの予習が出来たということで、選手や国際トライアスロン連合の方々と一緒に、コロナ禍中のスポーツ大会を行いました。スポーツ庁の皆さんや組織委員会の皆さんも視察に来られて、横浜モデルということで高い評価をいただきましたが、こういったことを情報展開していったり、皆さんにお話したりしながら、我々もノウハウを残していき、今後も感染対策をしっかりと行っていきたいと思っております。横浜のイギリス代表の事前キャンプは、オリンピックが600名、パラリンピックが200名、それぞれ約1か月いらっしゃいますので、こういったノウハウを活かしながら、おもてなしをして、お祝い事はなかなか派手には出来ませんが、しっかりと安全安心な大会をしていきたいと思っております。

オリンピックまであと29日となりましたが、神奈川県の方針で、横浜を走る予定だった聖火リレーにつきましても、公道走行は中止になっております。この会の山口会長も走るご予定でいらっしゃいましたが、こうして会議に参加していただけることになっております。また収容人数につきましても、横浜は野球、サッカー、ソフトボールを担当させていただいておりますが、各々7万人、3万5千人入る球場ですが、1万人という上限がありますので、これから抽選会を行い、残念ながらチケットを持った方もお入りいただけない、というようなことが行われると聞いております。そういった意味でも苦しい中ですが、横浜からもオリンピックをしっかりと成功させていって、世界の方々に良い大会をしていただけるよう、準備を進めていきたいと思っております。

委員の皆様には、第1回会議より貴重なご意見を多数いただいているところですが、引き続き、忌憚のないご意見をいただけるよう、本日もよろしくお願いいたします。

○熊坂部長 改めまして、本審議会はスポーツ基本法第31条及び横浜市スポーツ推進審議会条例第1条の規定に基づき設置されているものでございます。横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条の規定に基づき、公開の対象となり、議事録につきましても閲覧の対象となることを御了承ください。なお、本日傍聴者はいらっしゃいません。

議事録署名人につきましては、第1回会議において決定したとおり、2名ずつで持ち回りでいただくこととなっており、本日は佐々木委員、萩委員にお願いいたします。なお、前回の審議会の議事録につきましては、お手元に配付いたしましたので、後ほど御覧ください。

それでは、これ以降の進行につきましては、山口会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

4 議題

「次期横浜市スポーツ推進計画に向けて」

- ・次期横浜市スポーツ推進計画に向けた審議スケジュール
- ・横浜市スポーツ推進計画の振り返りについて

○山口会長 皆さんこんにちは。大変ご無沙汰をしております。コロナ禍の中、大変な状況でありますけれども、ご参加いただきましてありがとうございます。それでは早速、次第に沿って進めさせていただきます。

議題「次期横浜市スポーツ振興計画に向けて」、事務局から説明をお願いいたします。

○守屋課長 事務局のスポーツ振興課の守屋です。私の方からご説明させていただきます。資料1、資料2、合わせて説明させていただきます。

まず初めに資料1をご覧ください。「次期横浜市スポーツ推進計画に向けた審議スケジュール」でございます。こちらにつきましては、第1回からお示しさせていただいておりますが、このたび国のスポーツ基本計画の審議スケジュールも出て参りましたので、そのスケジュールも埋め込んだ形で資料を作成しております。

黄色の網掛けが、本日6月24日、第4回会議でございます。ピンク色が国の審議のスケジュール、水色が市のスケジュールとなっておりますが、国では11月頃に次期計画の骨子案が示される予定でございますので、それを受けまして、横浜市では第5回会議を12月頃に開催させていただきまして、「横浜市スポーツ推進計画（骨子案）について」、ご審議いただければと考えております。

次に国では12月頃に中間報告案が出て参ります。そして令和4年1月頃には答申案というスケジュールになっておりますので、横浜市においては第6回会議を3月頃に開催させていただきまして、「横浜市スポーツ推進計画（原案）について」、ご議論いただければと考えております。

次に国は3月末に次期計画の大臣決定がなされます。それを受けまして、横浜市では第7回会議を令和4年5月頃開催させていただきまして、「横浜市スポーツ推進計画（計画案）について」及び「横浜市におけるスポーツ振興について（答申案）」について、ご議論いただければと考えております。それを全て終えまして、5月末には次期「横浜市スポーツ推進計画」を策定するというスケジュールで考えておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして資料2「横浜市スポーツ推進計画の振り返りについて」をご覧ください。現行計画では目標を4つ掲げておりますので、目標の1つ1つについて、振り返りを行っております。

まず目標1「子どもの体力向上策の推進」でございます。目標値が「子どもの体力を横浜市の昭和60年頃の体力水準に回復します」でございますが、振り返りといまして、「昭和60年と比較出来る項目において、中間見直し後から直近までの体力・運動能力調査結果の推移をみると、小学5年生は反復横跳び以外の項目が、中学2年生はほぼすべての項目が目標値に届いていないものの、横ばいの現状が続いている。昭和60年頃の体力に戻すという目標は達成していないが、子どもを取り巻く環境が大きく変わってきている中で、次期計画の目標値をどう設定していくのか、検討が必要である。」としております。その下の取組につきましては、資料2別紙として、A4横長の資料をつけております。こちらに現行のスポーツ推進計画の主な取組についての振り返りを書いておりますので、参考に見ただければと思います。例えば子どもの体力向上については、取組の別紙1から7や、14などが該当するといった内容になっております。

資料2の2ページをご覧ください。(2)目標に対するこれまでの御意見の抜粋でございます。これまでの審議会では子どもの体力向上につきまして、皆様からご意見いただいたものを抜粋しております。ア「目標設定の視点」では、「子どもを取り巻く環境が大きく変わってきている中で、昭和60年代の体力に戻すというような数値的な部分を強調するのではなく、運動・体育が好きだという子どもの数を増やしていくことが重要」というご意見。イ「スポーツに関わる多様な機会の創出」では、「運動会や球技大会のような体育的な行事や、地域イベント、トップスポーツチームと連携したオンラインでのプログラム、スポーツボランティアなど、運動やスポーツに多様に関わる機会の充実を目標に取り入れたい」、というようなご意見をいただいておりますので、今回のご議論の中でも、これらに追加、補足等のご意見がございましたら、是非いただきたいと考えております。

資料3ページをご覧ください。目標2「地域スポーツの振興」です。目標値が「成人の週1回以上スポーツ実施率が65%程度、週3回以上のスポーツ実施率が30%程度となることを目標とします。また、スポーツボランティアを行ったことがある市民の割合が10%以上となることを目標とします」。振り返りですが、スポーツ実施率について、「成人の週1回以上のスポーツ実施率は、目標を0.5ポイント下回り、目標を達成していない。一方、成人の週3回以上のスポーツ実施率は、目標を3.5ポイント上回り、目標を達成した。成人のスポーツ実施率は年々上昇傾向にあったものの、令和2年度になって実施率が大きく向上した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、健康への意識が高まったことや、自宅で過ごす時間が増え、健康・体力の維持・増進や運動不足解消のためにスポーツをする人が増えたためと考えられる。これを一過性のものとせず、持続させていくことが今後の課題である。また、女性のスポーツへの感じ方をみると、女性は男性と比較してどの年代もスポーツが『好きではない』の割合が高い。年齢別スポーツ非実施率では、40代、50代の割合が高く、この年代が比較的スポーツを実施していないことがわかる。以上のことから、女性や子育て世代、働き世代への働きかけも課題である」。ボランティア参加率についてですが、「ボランティア参加率は、目標を3.0ポイント下回り、目標を達成していない。平成25年度以降、参加率は横ばいであり、目標達成までどうボランティア参加に繋げるかが課題である。ボランティアに参加するようになるきっかけを聞いた調査では、『参加したい活動があれば』の割合が高いため、情報発信や広報に力を入れる取組なども検討していく」としてあります。

4 ページは前回の審議会のお出しした資料の再掲でございます。

5 ページをご覧ください。(4) 目標に対するこれまでの御意見(抜粋)ですが、ア「スポーツ実施率について」は「コロナ禍でスポーツへの関心が高まったが、これを一過性のものとせず、継続できる施策が必要」。イ「女性のスポーツ実施率について」は、「スポーツ広報の際に意識的に女性(アクティブな女性)を載せることにより、昔の「女の子はままごと遊び」というような無意識の差別をなくすことが重要である。

6 ページをご覧ください。子育て世代の実施率、もしくはスポーツボランティア活動、特にスポーツボランティア活動についてはこれまであまりご意見をいただいておりますので、ぜひいただければと考えております。

続きまして7ページをご覧ください。目標3「高齢者・障害者スポーツの推進」です。目標値①高齢者スポーツの推進、65歳以上の週1回以上のスポーツ実施率が70%程度となることを目標とします。②障害者スポーツの推進、障害者の週1回以上のスポーツ実施率が40%程度となることを目標とします。振り返りですが、①高齢者スポーツの推進では、65歳以上の実施率は、数値を取り始めた平成27年度以降、毎年目標を達成している。令和2年度に目標値を10ポイント以上超える結果となった。目標値については成人の実施率に比べて数値を高く設定しており、インターネット調査は実態の実施率に対し多少バイアスがかかる可能性もあるため、次期計画で目標値をさらに高く設定するべきかどうかは、慎重に検討する必要がある。②障害者スポーツの推進、平成29年度の間見直しで新たに盛り込んだ障害のある方のスポーツ実施率は、目標を18.3ポイント上回り、目標を達成した。こちらも成人の実施率同様、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられるが、この結果が一過性のものかどうかを慎重に見極め、次期計画の目標値を設定する必要がある。

(2) 目標に対するこれまでの御意見(抜粋)ですが、「高齢者スポーツについて」、平成27年に72%だった実施率が80%になった。実施率が向上したのは非常に素晴らしいことだが、それによって何が変わったのか。いわばアウトカムの視点が非常に重要ではないか。

8 ページをご覧ください。障害者スポーツについてですが、(オ) 健全者に対する障害者スポーツへの理解促進は行われているが、障害者に対するスポーツ・レクリエーションの普及啓発や、これを支える人材育成をより一層地域で進めていくことが必要、というご意見をいただいております。

9 ページをご覧ください。目標4「トップスポーツとの連携・協働の推進」です。目標値、トップアスリートが参加するスポーツ大会やプロスポーツを間近で観戦した市民の割合が50%以上となることを目標とし、市民がトップアスリートに触れる機会を増やし、スポーツを行う意欲の向上につなげます。振り返りですが、トップスポーツ観戦率は、目標を20.3ポイント下回り、目標を達成していない。実施率の推移をみると例年横ばいとなっており、新型コロナウイルス感染症の影響によりトップアスリートが参加する大規模大会等の開催が制限されていたものの、観戦率に大きな影響はなかった。「好きな種目・競技だから」会場で観戦したと答える割合が6割以上を占めていることから、コロナ禍においても上記理由であれば会場に観戦しに行くと考えられる。コロナ禍において、観客収容数の減や、観戦スタイルの多様化が進んでいく中で、今後も会場での観戦に興味を持ってもらえるような取組を検討していくことが、観戦率の増加に繋がると考えられる。一方で、現地での観戦だけでなく、多様な観戦スタイルに応じた検討も必要である、としております。

10 ページをご覧ください。目標に対するこれまでの御意見（抜粋）です。再掲になりますが、トップスポーツチームと連携し、コロナ禍で選手たちがどのように身体活動を維持しているのか、広報などで届ける取組があると、選手を身近に感じ、スポーツ実施率や観戦率に繋がるのではないか、というご意見をいただいております。

事務局からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○山口会長 ありがとうございます。それでは、事務局から説明がありました内容につきまして、委員の皆様からご意見をいただければと思います。恐縮ですが退出時間の都合上、ゼッターランド委員から、全体を通してご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○ゼッターランド委員 目標4の「トップスポーツとの連携・協働の推進」というところで、コメントさせていただきます。昨年から今年にかけて、各競技、チームも個人もコロナ禍の中でどうしたら継続して活動が出来るかということ、様々な取組や工夫を重ねてこられて、こういう形だったら新しい形で出来る、というような発見があったと思います。トップスポーツも今、地域と密着しようという意識があり、横浜市の中のプロスポーツも皆さん、そういう考えを持って取組を率先してやられているという印象を強く持っておりますし、そういう取組は素晴らしいと思っております。自治体との連携もありますが、チームの努力もやはり必要になってくると思うので、成績を出しつつ、地域との連携も取りながら、スポーツの普及、推進に寄与する。この2つの大きな役割を担って、両輪で回していくというのはなかなか至難の業だと思いますが、ぜひチームの方とも窓口を密に持っていて、引き続き協働していただきたいと思っております。

資料2、9ページの「会場で観戦した理由」で、「好きな種目・競技だから」というのは、自発的、積極的な理由なのでトップに来ると思っておりますが、恐らく色んな取組を競技団体や地域の方もやっておられるのに、「選手と交流ができるから」というのがものすごく下の方にあることに、ビックリしました。そういう機会を設けていても、余り実感が得られていないのかなと、感じました。スポーツを始めるきっかけとして、トップスポーツを見に行く、好きだから見に行く、それがどれだけスポーツをやってみよう、携わってみようということに繋がっていくのかということ、もしかしたら二極化で、「やろう」という気持ちが強く出る人と、「プロスポーツというのは全然別の世界だわ」と思う人と、分かれるんだろうな、と思っております。ですので、競技団体と自治体との間で、そこを繋ぐことが出来る役割を持つところが、必要なのではないかな、と感じております。もう少し大学が、地域の中で色んなスポーツと繋がる役割、子どもや老人など様々な年代の方や、スポーツのレベルなどを繋げるような起点になれないかな、と思っております。それぞれの大学でマンパワーや規模の大小があるので、一概に統一して、というのは難しいと思っておりますが、何か大学がそこに絡んで、もう少しスポーツ全体の潤滑油的な存在になれると良いのではないかな、と思っております。

○山口会長 お忙しい中、ありがとうございました。それでは、目標は4つございますので、大体1項目10分程度で進めさせていただければと思っております。まず、今日新たにご出席いただきました、小学校体育研究会会長の荒井委員、並びに中学校体育連盟会長の小泉委員から、ご意見を頂戴したいと思います。では荒井委員、よろしくお願いいたします。

○荒井委員 横浜市立小学校体育研究会の荒井です。どうぞよろしくお願ひいたします。今回「子どもの体力向上策の推進」という目標についての意見と伺っておりましたので、小学校体育研究会の役員の見解を募って、整理した内容をお伝えします。

子どもの体力を昭和 60 年頃の体力水準に回復します、という目標値についてですが、子どもたちを取り巻く環境は、当時と今とは大きく違います。そこで、「昭和 60 年頃の体力水準」という目標値に加えて、今の時代の生活スタイルに合う体力水準ということも視野に入れながら、推移を見ていくことも必要だと思います。特に今、小学生は一昨年度末から続く新型コロナウイルスによる影響で、運動不足になっているとよく言われます。確かに約 3 か月間一斉休校が続いたことや、体育の授業の進め方が大きく制約されたこと等の影響は、大きかったと思います。昨年度学校再開後は、怪我が増えたという情報も聞きます。一方で、徐々にコロナ以前の状況を取り戻してきている現状も見られます。体育の授業においても、接触はしない、距離をとるなど、制約はまだ少なくありませんが、工夫しながら進めることが出来ています。

また、休み時間における外遊びの児童の様子を見ると、以前と変わらない状況に戻っている学校が多いかな、と思います。このように、学校生活で状況は好転しつつありますが、今までの影響を考えると、本年度取り組んでいる新体力テストの結果は、下がるのが予想されます。もし明らかに下がっているとしたら、その結果をスタート地点として、今後どれだけ取り戻せるか、という観点も必要だと思います。

そして、コロナ以前から現代の子どもたちの課題になっていることは、二極化問題だと思います。地域のスポーツクラブ的なものに所属する子どもたちは、大人の管理のもとで体力を向上させていますが、一方で、そのような機会のない子どもたちは、子どもたちだけで自由にのびのびと遊べる環境が少なくなったこともあり、日常的に運動に親しむことが出来ていない子どももいます。そんな子どもたちのためにも、今回挙げていただいている様々な取組については、どれも魅力的で、素敵なものばかりだと思います。特にオリンピック、パラリンピック、そしてプロスポーツ選手など、アスリートの方々との出会いは子どもたちの一生の思い出になりますし、生涯にわたってスポーツに親しむきっかけになると思います。そして子どもたちが自由にのびのびと遊べる環境を整え、運動に親しむ機会を積極的に設けることで、運動好きな子どもを増やすことに繋がっていくと思います。小学校体育研究会でも、運動に親しむための多様な機会の設定ということについて、考えています。今まで教育委員会主催で進めていただいていた、横浜市全体を単位とした体育に関する複数の行事については、持続可能との観点から、実技発表会を残して、その役割を終えました。小学校体育研究会としましても、この持続可能という観点を重要なキーワードとして捉えていますので、行政としての施策を打ち出さいただき、関係機関と連携しながら、その施策の実現に関わらせていただければ幸いです。以上です。

○山口会長 ありがとうございます。それでは続きまして、小泉委員、お願ひいたします。

○小泉委員 中学校体育連盟会長の小泉でございます。よろしくお願ひいたします。

この「昭和 60 年頃の体力に回復する」という計画を立てたのは、ちょうど私が教育委員会に在任の頃でした。その時に私の先輩が、「体力アップよこはま 2020 プラン」というのを作成して、各小、中学校で「体育・健康プラン」というのを作成しながら、「一校一実践運動」ということで、各学校で体力向上に向けた取組を何か 1 つ、というようなことをやってまい

りました。確かに「昭和60年の体力に」というのは、なかなか今の状況を考えると、少し考え方を変えた方がいいのかな、と思います。

中学校では、保健体育の授業とともに、部活動では夏の最後の大会、市総体というものが始まっています。去年はコロナの関係で大会が全て中止になってしましまして、3年生の節目に、交流試合という形で、何とか試合をさせてあげようという取組をしましたが、今年度につきましては、部活動の大会を普通に行っております。その部活動も、今やはり、顧問になる先生がなかなかいない部分もありますので、部活の指導員ということで、かなり多くの学校に地域の指導者の方が入って、面倒を見てもらっているのが現状になっています。

私も保健体育の教師でしたので、子どもたちの今の体育での動きを見て感じることは、サッカーは上手、野球は上手なだけけれど、他の種目をやらせてみると、なかなか上手く出来ないという子が多いです。特にハンドボール投げですが、ボールというのは肘を出して投げますけれども、今、肘を出してボールを前に出すことが出来ない子、バットを振る時に、逆にバットを握って振ってしまう子だとか、そういう子が非常に多くみられます。ですから、1つのスポーツだけ出来るのではなくて、やはり色々なスポーツがオールラウンドに出来るような状況を、学校としては作っていくことが必要なのかな、と思います。なかなか授業の中でそれを全て克服していくのは難しいところですので、やはり日頃のスポーツの取組というところが、何か出来るといいのかな、と私も常々考えております。

○山口会長 ありがとうございます。文部科学省から、先生の働き方改革で、土日は原則指導に入ってはいけないと聞いています。その辺も何かありますか。

○小泉委員 部活動というのは、生徒指導にも関わっているのですが、平日学校の職員が顧問として活動していたものを、土日の休みは地域の方に渡さなくちゃいけないということになりますと、試合への取組や、生徒指導面など、なかなか難しいところが多く出てきます。ですから取組は慎重にしていく必要があると考えています。

○山口会長 ありがとうございます。それでは目標1「子どもの体力向上方策の推進」について、皆様から追加のご意見等ありましたら、お願いいたします。

○宮嶋委員 これから土日に子どもたちの部活が地域に開放されることが、非常に心配だということですが、学校の先生からするとそうした難しい面もあると思いますが、逆に学校から解放されると、地域の人たちの多様な力を得て、子どもたちがより刺激を受けて、のびのびと、良い方向に発展する可能性もあると思います。今、総合型の様々なクラブでは、研究活動も盛んになっていますので、その辺りは学校の先生とお互いに縄張り争いをするのではなく、より良い方向を探っていくのが良いのではないかな、と思います。

コロナ禍において、絶対的な運動量が不足しているのは分かっております。そこで、「子供の体力・運動能力向上モデル事業」ということで、浅岡良信さんが「ひまわりキャラバン」というものをやっています。浅岡さんはシンクロの井村さんのトレーナーをしていた方で、元々理学療法士です。そういう、身体のことをよく知っている方が、世界中のアスリートを見てきた中で、こうやるとすごく楽しめて、モチベーションが上がって、学校の体育館でこれだけ体力が向上しますよ、ということをやっています。1年間8回のトレーニングで、後ろから2、3番目だった小学校が、日本一になりました。これは、体力を上げるためのトレーニングではなくて、子どもたちが面白がって体力を上げるための、いわゆるツボ押しなんですね。そういうのもぜひ入れると良いと思います。

○山口会長 ありがとうございます。それでは大日方さんお願いいたします。

○大日方委員 今、文部科学省のスポーツ基本計画部会でも、運動部活動と地域のスポーツクラブ、あるいは地域でのスポーツ人材をどう連携させていくのか、というのは、大きなテーマになっています。ヒアリングをしたところ、現場の先生方はやはり「指導、教育の問題だ」、「開放するのは難しい」、「慎重にしたい」と、同じことをおっしゃいます。一方で、そういう側面があることは分かりますが、このままやっていると人材がどう考えても足りません。地域のスポーツのやる場所、そういったことを支える人たち、といったところも変わりませんので、ここはもう、変わらなければいけない時期なんだ、というのが、この5年間で来ているのだと思います。

色々と難しい側面があると思いますが、これまで通りやるのではなく、変わっていくこと、そして子どもたちがスポーツを好きになることも大切なんですけれども、嫌にならないようにするため、多様になっているスポーツとの関わり方、例えば地域のスポーツクラブに参加している子ども達をエクスクルージョンするのではなく、どう一緒にやっていくのか、という視点で考えていく必要があると思います。目標値を出しているところは、やっぱり色々ご意見いただいている通り、この数字なのかな、と違和感があります。苦手な子どもをどう作らないようにするのか、「運動は好き」という子どもたちをどう作っていくのか、という視点が必要だと思います。コロナ禍の話においては、横浜市にデータが該当するか分かりませんが、地元の渋谷では子どもの骨折がすごく増えています。恐らくそういう影響もこれから長期的に出てくる中で、子どもの健康という視点と、怪我をさせないということと、スポーツ、というところが重要だと思います。

○山口会長 ありがとうございます。それでは時間の関係もありますので、次に進めさせていただきます。目標2「地域スポーツの振興」について、今回新たにご出席の、スポーツ推進委員連絡協議会会長、平井委員からご意見を頂戴したいと思います。

○平井委員 スポーツ推進委員の平井でございます。よろしくお願いいたします。

②ボランティア参加率について、ということですが、まさに私たちスポーツ推進委員も、スポーツボランティアの一員であります。資料2の5ページにあるように、きっかけが「参加したい活動があれば」ということであるならば、12月に骨子案が出来るまで、まだ時間があると思いますので、もう一步踏み込んで、じゃあどのような競技種目であれば参加したいですか、といったアンケートも必要なのかと思います。なおかつ「時間に余裕ができれば」というのは、これはもう、運営側からすれば大変なこともあります。午前中、もしくは午後だけ、あるいは数時間だけでも参加しませんか、という形で、色んな競技種目とか大会の運営の仕方によっては、可能だと思います。私どもがやっているファミリースポーツというのは、1日を通して体育館の中で12種目くらいやるんですけども、その中で午前中だけ手伝いに来る方、午後だけくる方、そういう形で出来ることもありますので、今後そういったところを模索していくと良いのかな、と思います。

活動の場所というのは、私たちスポーツ推進委員というのは自治会との関わりも多くありまして、自治会がやる運動会とか健民祭、またはロードレース、マラソン大会など、多岐にわたって色んなスポーツに関わる部分も多いです。スポーツ協会さんの、さわやかスポーツ普及委員の方たちと一緒に活動することも多いので、このボランティアセンターへ登録された方に、こういった団体があるよ、というご紹介をしていただけると、活動の場所が見

つかるのではないかと思いますし、参加率も上がってくるのかな、と思います。実際、私も、さわやかスポーツさんもそうですが、なかなか人材が不足しており、なり手がありません。スポーツ推進に対して横浜では定員が約 2700 名のところ、200 名ほど足りない状況です。このスポーツボランティアに登録されている中で、上手く連携を取り合えば、人手不足も解消できるし、ボランティアに登録されている方も、自分の活躍の場が見出せると思うので、今後生きてくるのではないかと、思っております。

○山口会長 はい、ありがとうございました。それでは他の方もご意見お願いいたします。

○石黒委員 ボランティアの参加率といったときに、何のボランティアなのかといったところを、もう一度確認しても良いのかと思いました。恐らく今の調査ですと、大会の運営サポートや定期的なスポーツ指導等の項目が上がっていると思うんですけども、直接的な指導じゃなくても、例えば子どもが入っているスポーツクラブの世話係や、送り迎えのサポート等といったところも、そういうサポートがなければ、子どもたちはスポーツを出来ないわけなので、スポーツボランティアの認識を広げていくことが大事だと思います。

以前行った調査で、スポーツ指導のボランティア限定だったんですが、「すすんでスポーツ指導のボランティアをしていますか」と尋ねた時に、およそ 3 割の方が「実はやむを得ずやっています」という回答だったんです。「自分が指導しないと活動がストップしてしまうのでやっている」という理由が多かったんですが、それは恐らく、「ボランティア」という言葉の意味から、自発的にやっていないということが、ボランティアではないんじゃないか、ということがありまして。ボランティアを増やすのも勿論大切なことなんですけれども、進んでやっていただく、喜んで参画していただけているか、ということも、とても重要なことですし、そこがないと持続可能性というところからも問題が生じてしまいますので、そこに配慮した取組というか、留意してサポートしていく必要があるのではないかと思います。

○山口会長 ありがとうございます。それでは次に、目標 3 「高齢者・障害者スポーツの推進」について、ご意見をお願いいたします。

○宮嶋委員 女性や障害者、高齢者にスポーツをもっとやってもらいたいと思う時に、スポーツの概念を、「より高く、より早く、より強く」というような、オリンピックのモットーのようなものを忘れた方がいいと思うんです。世界的にも、スポーツとはこういう概念から外れた形で、身体運動としてもっと違うものを、という風になってきていると思います。特に障害者スポーツは、障害者同士で競技をやるというよりも、健常者と一緒になって楽しめる、ゆるスポーツのようなものとか、そうしたものをもっとやっていくことの方が良い気がします。女性もそうで、やりたい人は普通の競技にいけば良いんですが、誰もかれもが競い合うスポーツを、という考え方は根本的に捨てた方がいいと思います。オリンピックやパラリンピックもそうですが、19 世紀から始まったスポーツは今こういう風になっていますが、このスポーツのあり方でいいんだらうか、という疑問が色んなところから出てきているので、そういう観点からも是非ご検討いただければと思います。

○山口会長 ありがとうございます。大日方委員お願いいたします。

○大日方委員 障害者にとってのスポーツについて考えた時に、私は自分の経験を振り返ると、学校の体育の授業はすごく苦手でした。水泳は得意だったので、夏だけ良い評価がつくんですが、陸上やダンスの時期になると低くなるんです。なぜこういう評価がつくかという、周りと比較されているからなんですね。運動そのものは楽しくて、体を動かすことは

好きだったし、自分の中での成長はあったと思うので、それを評価してもらえたら、ここまで体育の授業が苦手だと思わなかったな、と思うんです。そうしたときに、障害者や高齢者、それぞれの人たちのフィジカルアクティビティ、それぞれの人にとっての目標に、どこまで近づけたか。どうやって工夫することができたか、みたいなところを、「評価」ではなく「シェア」だと思うんですけれど、まわりの人とシェア出来るといいな、と感じています。

障害者スポーツについて、もう1つすごく重要だと思うのは、医療との連携です。今は障害を持って、昔ほど長く病院にいさせてもらえません。昔だと、長く病院にいる間に色々な人たちのネットワークが繋がって、そこからスポーツにもつながっていく、ということがあったんですが、今はそれが途切れていることが問題になっています。横浜にはプールもありますし、色々、障害者スポーツを支えるネットワークがあるので、医療とスポーツ、フィジカルアクティビティに近いところかと思えますので、ぜひそこを繋げていくような取組を入れていただければ、障害者スポーツ実施率や、高齢者の実施率にも寄与できるのではないかと思います。

○山口会長 ありがとうございます。他にございますか。萩委員お願いいたします。

○萩委員 7ページに「アウトカムの視点が重要である」とある通り、スポーツ実施率を上げることが目標ではなくて、スポーツをすることによって、結果的に健康になるとか、元気になるとか、明るくなるとか。つまりそこにまで持って行かないと意味がないので、正にアウトカムのところが非常に重要ですから、高齢者の場合は特に、実施率を上げることのその先に何がある、というプロセスを、しっかり計画に入れこんでいくことが、次の課題だと思います。例えば高齢者なら、外出をする人が増えたとか、それをきっかけにお友達ができたとか、毎日を充実して過ごせるとか。そういう指標が、本当は次のところで必要になってくるのではないかと思います。

○山口会長 ありがとうございます。それでは小熊委員いかがですか。

○小熊委員 今スポーツ庁でも、スポーツをかなり広く捉えるという方向で進めています。フィジカルアクティビティ、体を動かすことや、高齢者の方の実施率が増えているところには、ウォーキングとか比較的緩やかなスポーツが含まれるように持って行っているから増えている、というのも多分にあるかと思えます。現行上のアウトカムという意味では、スポーツ実施の先にあるものとして、ウェルネス等を意識して、考えていくことも大事だと思います。高齢者では、高血圧や糖尿病、一度脳卒中を起こした後の方など、約7割の方が何等かの病院に通院してみえますので、そういった方も含めて、身体活動を楽しめる、そのための医療との連携というのも非常に大事だと思います。健康方面での動きとしては、2013年に「アクティブガイド」というガイドラインが出ましたが、かなり年月が経っているので、昨年度と今年度、厚労省で改訂作業をしております。そういうものとも連携していけると良いのでは、と思います。

○山口会長 ありがとうございます。それでは目標4に進みたいと思います。「トップスポーツとの連携・協働の推進」について、佐々木委員いかがでしょうか。

○佐々木委員 今までのご意見を聞いていて、私もスポーツの捉え方を転換していく時期なのかな、と思いました。それは、どういう方が指導するかということにもつながってくると思います。女性でスポーツが好きではない人が多い、というデータがありましたが、それはやはり、スポーツをどう捉えているか、というところが影響しているのだと思います。レ

クリエイションとして体を動かすことは嫌いじゃないけれども、スポーツと言われると、認識がまだ固まっている感じがするので、そういうところを解いて行く作業が必要かと思いました。それは子どもに対しても同じで、大会を目指すのが1つの目標になってしまうと、1回負けたらおしまい、勝っている人たちだけがやる、後は応援とか。そういうのではなくて、もう少し色んな形で参加できるような考え方が、全体としてそういう雰囲気になると良いのかな、と思います。トップを目指している人もいますが、そうじゃないところで、広く自分も参加できるんだということを、認識できると良いと全体を通して思いました。

○山口会長 ありがとうございます。それでは平野委員、ご意見いかがでしょうか。

○平野委員 目標の1つ目については、幼児期の取組をもっと強調して良いのではないかと思います。2つ目の目標については、4、50代で運動を始めた人に、きっかけを聞くようなヒアリングをしても良いのではないかと思います。4つ目のトップスポーツの話は、市民から選手に対しては色々動きが来ているんですけども、もっと逆をやるべきではないかと思います。すなわちトップの選手やチームが市民に向けて、何かの活動をするという方法が必要ではないかと思います。

○山口会長 ありがとうございます。それではトップスポーツのところ、何かご発言ございますか。大日方委員お願いいたします。

○大日方委員 「好きな種目・競技だから」が1番多いのは当然だと思いますが、もし観戦するのに足を運んでもらうとするならば、ファンになってもらうということだと思います。アスリートたちが、どうすればファンになってもらえるのか、地元の人たちにより応援してもらえるのかということ、働きかけることが必要だと思います。

横浜はすごくたくさんさんのスポーツがあり、しかもあまり「私のまち」という感覚でない人たちもいると思うんですけども、そうはいつでもやはり「地元チームを応援したい」というような、自分のシティプライドを持ってもらうための1つとして、ファンになってもらうという取組も出来ると良いのかな、と思います。

○山口会長 ありがとうございます。他にご意見よろしいですか。石黒委員お願いいたします。

○石黒委員 今回ご説明いただいた振り返りというのは、目標が大きく4つに分かれていて、それに取組が紐づくという形になっていると思いますが、大きな節目になりますので、各取組がどれくらい各目標に効果的であったのか、ということ、数字で検証するのはなかなか難しいとは思いますが、振り返る必要があると思います。

もう1点は、「横浜らしさ」が、どういうものなのかというところが、ふわっとしている気がします。「横浜らしさ」が何なのか、ということ踏まえた上で、施策を検討していくと良いと思います。他の自治体の模範になるべき市だと思いますので、今あるレガシーやリソースというものを、どのように活用していくか、ということについて、一度まとまった議論があっても良いのではないかと感じました。

○山口会長 ありがとうございます。それではそろそろ時間ですので、次に進ませていただきたいと思います。事務局、よろしくお願いいたします。

5 報告事項

○守屋課長 資料3をご覧ください。令和3年度予算概要スポーツ振興費の抜粋でございます。めくっていただいて、19ページをご覧ください。令和3年度スポーツ振興費の予算ですが、全体で49億4594万2千円、前年度に比べまして、13億7026万2千円の減となっております。内容ですが、(1)スポーツ関係団体支援事業ということで、スポーツ団体への補助金の交付等の金額ですが、4億5487万6千円となっております。その下(2)市民スポーツ振興事業ですが、市民の皆様身近な場所でスポーツに親しんでいただけるような事業ですが、こちらが1億1243万8千円となっております、こちらは増になっておりますが、ケの部分で、学校開放事業のために、学校施設への夜間照明設置を進めさせていただいておりますので、この工事費で4700万円ほど増額になっております。

20ページをご覧ください。(3)スポーツイベント開催等事業でございます。こちらについては、横浜マラソンやトライアスロン等の事業費になりますが、1億8223万2千円となっております。(4)スポーツ施設等管理運営事業、こちらが25億3888万円となっております、前年度に比較して減になっておりますが、こちらは主に、施設の修繕工事等が終了した部分で、減額となっております。

21ページをご覧ください。(5)東京2020オリンピック・パラリンピック開催推進事業でございますが、16億5751万6千円となっております、こちら増額になっておりますが、増額の要因は(カ)新型コロナウイルス感染症対策の費用が、増額になっております。説明は以上でございます。

○山口会長 ただいま説明いただきましたが、何かご質問ございますでしょうか。

○宮嶋委員 冒頭の西山さんのお話で、これから事前合宿でオリンピック600名、パラリンピックで200名を受け入れるということでしたが、既にご存知の通り、タンザニアで2人陽性者が出たということです。これもどうなるのか分からないことですが、本当に大変なことだと思うので、こういうことに対して、もし何かあった時に、隠さないできちんと対応できるような体制にしていきたいです。もちろんその準備はしていらっしゃると思うんですけども、そこだけは是非お願いしたいと思います。

○西山室長 ありがとうございます。600名のイギリスの方が、慶応義塾大学に大変お世話になっておまして、30競技くらいの事前キャンプを行います。横浜市の施設としては、国際プールを使って行い、市内のホテルに泊まっていただくこととなります。一番大きいのは、コロナが発生した時のことだと思いますが、これにつきましては今、神奈川県と協議会を開いております。事前キャンプだけでなく、横浜はサッカーもやりますので、神奈川県にサッカーの選手やその他の方々も泊まることとなります。7月末には約5000人の外国人の方が神奈川県に泊まる予定になっておりますので、神奈川県とも協力して、コロナ発生時には、神奈川モデルというものがありますので、神奈川県、藤沢市等々と協力して、しっかりやっつけていこう、ということになっております。隠すことなく、情報もオープンにしながらやっていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

○山口会長 ありがとうございます。それでは事務局の方から何かございますでしょうか。

6 その他

○守屋課長 委員の皆さま、どうもありがとうございました。次回の審議会は12月を予定しておりますので、後日日程調整をさせていただきます。以上でございます。

7 閉会

○山口会長 それでは只今を持ちまして、第4回会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。